

皆さんの足は、まかせてください

主役交代

60年間ご苦労さまでした。



62年3月30日改正

留萌十字街～三泊神社間バス運行時刻

Table with 2 columns: (上り) and (下り). Each column contains a list of bus stops and their corresponding arrival and departure times.

Table with 2 columns: (上り) and (下り). Each column contains a list of bus stops and their corresponding arrival and departure times.

昭和2年留萌～大樽間が開通してから今日まで60年間にわたり地域住民の足として、さらには日本海沿岸市町村の産業、経済の振興発展に極めて重要な役割を果たしてきた国鉄羽幌線、3月29日をもってその歴史を閉じました。お役目ご苦労さまでした。

羽幌線 長い間
ご苦労さまでした
3月30日より、バス転換

羽幌線の歴史

昭和2年10月25日 留萌線(現羽幌線)、留萌大樽間開通営業開始。中間に三泊、白谷、小平の各停車場を開業。
昭和3年10月10日 留萌線(現羽幌線)、大樽・鬼鹿間開通営業開始。
昭和6年8月15日 留萌線(現羽幌線)、鬼鹿・古丹別間開通営業開始、中間に力登停車場を開業。
昭和7年9月1日 羽幌線、古丹別、羽幌間開通営業開始、中間に上平、苦前の両停車場を開業。
昭和10年6月30日 天塩線(現羽幌線)、幌延・天塩間開通営業開始、中間に振老・北川口の両停車場を開業。
昭和11年10月23日 天塩線(現羽幌線)、天塩・遠別間開通営業開始、中間に更岸・丸松の両停車場を開業。
昭和16年12月9日 羽幌線、羽幌、築別間開通営業開始。
昭和32年11月6日

羽幌線、築別、初山別間開通営業開始、中間に天塩有明、天塩栄の両停車場を開業。
昭和33年10月18日 羽幌線、初山別、天塩線、遠別間開通営業開始、中間に豊岬、歌越、天塩大沢、井成、天塩金浦の各停車場を開業、これにより留萌、幌延間が全通し、天塩線の名称を廃止して羽幌線と改称。
昭和62年3月29日 羽幌線全線、旅客営業廃止。3月30日よりバス代替輸送になり羽幌線は着手してから今日まで60年の歴史に幕を閉じました。
おもえば先人たちが鉄道の敷設に執念と血の汗を流す努力により開通した羽幌線、当時交通機関といえば、旅行者は客馬車、貨物は荷馬車で冬期間は馬そりが主役の時代で、国鉄という巨大輸送機関の出現は、単なる交通機関だけでなく、人の集まる所、必然的に商店街が形成され、繁栄の源でもありました。
鉄道の開通により市町村は発展したといっても過言ではないと思います。
近年道路網の整備と急速な自動車の発達により、国鉄の

利用者が減り、時代の流れにより羽幌線が消えることになりました。本日に淋しいかぎりです。
長期間、地域経済の発展と生活物資の輸送、通勤通学の足として重要な役割をはたし去っていきましました。60年間ご苦労さまでした。
29日で廃止になった国鉄羽幌線に代わり、住民の足として沿岸バス株式会社代替バスが30日早朝留萌十字街から6時21分幌延にむかつてスタートしました。
代替バスは、住民利便を考慮し、新車16台を購入して通勤、通学の足の確保に万全の態勢をとっています。
市内の輸送経路は3系統があり、通学対策の元川町経由、一般乗客に配慮した船場町経由、快速旭川行を考えた東岸船溜り経由があります。
運行回数は、旧国鉄の運行回数8往復(留萌～羽幌間)を確保し、既存バスの運行回数9往復と合わせて1日17往復を確保しています。
今まで国鉄を利用していた

代替バス スタート

往民に不便をかけないように配慮され、これから住民の足としてスタートしました。
バス転換により留萌市が実施する関連事業について紹介します。
元川町に通学生を対象に留所を(25平方メートル)を設置します。
東岸通りを交通安全対策として道路改良工事(361平方メートル)を実施します。
留萌駅前と三泊駅の待合にバス利用者の利便性を高めると共に商店街振興、海水浴場対策として駐車場を造成します。留萌駅前駐車場(588平方メートル)、三泊駅前駐車場(184平方メートル)以上のことを整備し、利用者には不便をかけぬよう計画を進めています。
なお、沿岸バス株式会社が実施する事業のうち留萌市には、駅前待合所の改築と明元町のバス置場の造成が計画されています。
市民の皆様のご協力をお願いします。バス転換についての問い合わせは、市役所秘書企画課 ☎2-1801-263番へ。

留所・駐車場整備